学校だより　令和５年度　第３号

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

協働

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

令和５年６月１６日発行　　奥多摩町立奥多摩中学校

ふれあい月間×ほめる力

校長　原　善哉

東京都は、６月、11月、２月を「ふれあい月間」と位置付け、社会全体で児童・生徒の健全育成・いじめ防止を図る取組みを行っています。本校も、生徒達が安心な学校生活を送れるように取り組んでおります。

ふれあい月間に寄せて、三重県にある自動車教習所の話をします。自動車教習といえば厳しい教官に叱られながら免許を取得した思い出がありますが、おそらく共感される方もいらっしゃるのではないでしょうか。

実はこの教習所、「叱る」ことではなく「ほめる」ことで教習を行う「ほめちぎる教習所」なのです。

初めて聞いた時には、失礼ながら、ただ教習所の集客を上げたいだけの、若者に迎合した取組だと思いました。むしろ命に関わる資格であるのに、そんなに甘いことで良いのだろうかとも感じました。

思った通り、その教習所への入所者はとても増加したそうです。しかし調査報告それで終わりではなく、教習生たちの「運転免許試験の合格率は増加」し、さらにはなんと「交通事故の事故率は減少」しているというのです。つまり「ほめ」によって甘やかされているどころか、試験では実力を発揮し、運転では高いパフォーマンスを発揮させているという実績があるのです。私はとても驚き、同時にこのメカニズムを知りたいと思いましたので、教習所経営者の著書「ほめちぎる教習所のやる気の育て方」を読んでみました。

著書には「ほめるちぎる教習所」として教習所の改革を進め、教官全員が本気で「ほめる練習」をして、お世辞でもおべっかでもない、教育としての「ほめ方」を体得していることが書かれていました。まさに「ほめて伸ばす、ほめて育てる」手法を整理し体系化し見事に実践していたのです。さらにその効果は教習生にとどまらず「教官自身が気持ちよく仕事ができるようになったこと」や「職場の雰囲気がとても良くなったこと」「教官や教習生の家族にまで良い影響が伝わっていること」なども書かれていました。とても素晴らしいと思いました。同時に教師として親として、私たち大人が実践すべき内容だと感じました。

著者いわく「ほめ」力を身に付ける方法は「まずは毎日、人でも物でもその『いいとこ探し』を続けてください。その取組（練習）を続ける中で、ほめる相手の行動や人間性の理解が深まり、本気でほめることができるようになるんです。そうすると信頼関係が深まり、伝えたいことが伝わりやすくなるのです。つまり叱る必要がなくなるのです。だまされたと思って３ヶ月は続けてみてください。」とのことでした。これ、実は最新のスポーツコーチングやカウンセリングと、全く同じ考え方、同じ手法なのです。

「ほめちぎる
教習所」の
やる気の育て方
上司のイライラを消し、部下の折れない心を育てる
加藤光一（著）　坪田信貴（監修）

「ほめられる（認められる）」ことで、「やる気」「パフォーマンス」が高まるのですから学校生活で考えると「免許の合格率が増加」するように「生徒の学力が向上」し「事故率が減少」するように「ケンカやいじめが無くなっていく」そんなすてきな日常を作ることができるのだと私は強く信じています。常に認め続けること、ほめ続けることは、すぐには難しいでしょう。しかし３ヶ月練習すればできるようになるのならば、取り組んでみようではありませんか。大切なのは結果をほめるのではなく取組や努力（プロセス）をほめることです。

学校とご家庭・地域の皆様と連携した「ほめシャワー」で、この「ふれあい月間」を「ほめ強化月間」にして、奥中生達に最高のパフォーマンスを発揮させてあげましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

★「ほめる」ことは「認める」こと　　★「ドンマイ」より「ナイストライ」

★「すみません」を「ありがとう」に。　★　ほめ言葉３Ｓ「すごい」「さすが」「すばらしい」

★私メッセージ「君ができて、私は嬉しい」「君が成功して私は助かった」

★叱る教え方は「基準に満ちていない部分を指摘する」もの。
ほめる教え方は「今、基準のどこまで、できているのかを知らせる」もの。